保護司会だより

黒松

回覧

第81号
令和8年1月5日発行
柏崎刈羽地区保護司会
TEL(0257)23-8615
柏崎市豊町3-59
総合福祉センター内

米山と白鳥（槇原町）　撮影／保護司 佐藤俊男

新年のご挨拶と愛の協力運動の御礼

柏崎刈羽地区保護司会
会長 永寶 和彦

新年明けましておめでとうございます。

今年が皆様にとりまして良い年になりますよう念じております。とは申しましても、世界では戦争が絶えず、また、日本を取り巻く情勢も予断を許さない状況です。戦争を知らない世代が人口の9割を占める時代になったと言われます。平和の有難さを改めてかみしめながら、保護司会も明るい社会づくりのために微力ながら努力して参る所存です。

さて、毎年7月を中心に展開されている「社会を明るくする運動」につきまして、昨年も各地域の皆様から多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

いうまでもなく犯罪を犯した人たちの更生支援と犯罪防止活動が保護司の使命ではありますが、地域社会の理解や協力なしではなしえることではありません。明るい社会の実現に向かって、今後とも一層のお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

こどもの成長と地域の役割

～保護活動を通じて思うこと～

故 横田誠一氏（保護司）

退職後、未体験の職である保護司を拝命して15年目を迎えました。今、自らの自戒とともに感じたことを述べてみたいと思います。

更生保護を目的とし、担当した世代は十代から20代前半の若者がほとんどでした。私にとっては孫の世代です。拙い経験から振り返ってみて思うことがありました。

それは、子供の成長に家庭と地域の環境が大きく影響しているのではないかということです。

戦争を知らない世代の私たちが育った戦後間もない昭和の時代は復興の途中であり、決して豊かではありませんでした。

3世代同居は普通で、兄弟も多く年長の子供は弟、妹の子守や家の手伝いは普通でした。両親は忙しく孫の子育ては祖父母が担っていました。地域も支えあって生活していました。当時も悪ガキもいましたが、地域の大人たちが分け隔てなく叱ったり褒めたりしてくれたことを想いだします。不登校という言葉は聞いたことがありませんでした。

今の時代、確かに経済的には豊かになりました。社会環境の変化か3世代同居は稀になり、近くの子供たちにもうっかり声もかけることもできないような世の中になりました。

この年齢になって、孫の世代の親にあたる私たちの子育てに問題はなかったかという自責に駆られているのは、私だけでしょうか。

人生の後半に差し掛かった私たちの世代において、今、何ができるかが問われています。数年前から、町内会の業務にかかわることになり同世代の方々の協力の下、手始めに公園の整備として各補助事業により3年計画で植樹をし、遊具の設置、そして町内会創立40周年事業として「**ふれ愛公園**」と銘を打った看板を建立して、子供たちの遊び場と大人の憩いの園として整備いたしました。

うれしいことに近くの保育園児の散歩コースになってきました。

他に町内数か所に「**笑顔で挨拶明るい町づくり**」「**環境美化運動実践中**」等の啓蒙看板を設置しました。

そして町内会行事に子供たちが笑顔で参加してくれている。さらに町内会を超えての活動は地域のコミュニティ活動にもかかわっているので、他の地区の子供たちとの触れ合いも極めて重要な役目だと思っています。

残された人生は、次代を担う子供たちを地域の宝として見守り、育む『お節介おじさん』を目指して同世代の皆さんとともにささやかな挑戦をしたいと思う、今日この頃です。

横田誠一様は9月1日ご逝去されました。慎んで哀悼の意を表します。

新任のごあいさつ

保護司 山田 智

この度、新任として保護司のお仲間に入れさせていただきました。

先輩からこのお話をいただく前に、ある中学生の「社会を明るくする運動」の作文に心を動かされていました。そこには「罪を犯した人は相応の処罰を受け、罪の深さを自覚するべき…しかし、一度、道を踏み外した人たちへも、償いが終わったのなら、みんなが少しずつ手を差し伸べることで、その人にも、再び生きる勇気が甦るはず」と綴られていました。

こんな社会の実現のために、微力ながら寄与していきたいと思っております。

学校訪問
―地域との連携を密に―

保護司　佐々木恵一郎

毎年保護司会では、柏崎市・刈羽村の中学校と高校を訪問し、情報交換を行っています。中学校においては、「社会を明るくする運動」の周知も兼ねて、生徒さんたちに夏休みの宿題として作文のお願いをしています。

今回私たちが訪問した鏡が沖中学校では、杉谷明校長先生から学校の現状をお聞きしました。学校は落ち着いており、その中で生徒さんたちが勉学にスポーツに励んでいるとのこと。私たちからも保護司会がかかわる「社会を明るくする運動」について、活動の内容や夏休みの宿題としての作文のお願いなどの他、保護司の役割についてお話しさせていただきました。

市内の他の中学校や高等学校においても同様に情報交換させていただきました。短い時間ではありますが、連携のパイプをつなげておくためにも今後も行っていきたいと思っています。

お忙しい中、対応してくださった学校職員の皆さんに感謝申し上げます。

〝社会を明るくする運動〟作文コンテスト 柏崎刈羽地区表彰者

●柏崎刈羽地区推進委員会長賞　東中学校二年　伊部咲月

●柏崎刈羽地区保護司会長賞　東中学校二年　宮田侑奈

●柏崎刈羽地区更生保護女性会長賞　第一中学校二年　阿部夢晟

おめでとうございます

結成70周年を終えて

柏崎刈羽地区更生保護女性会　会長　酒井美代子

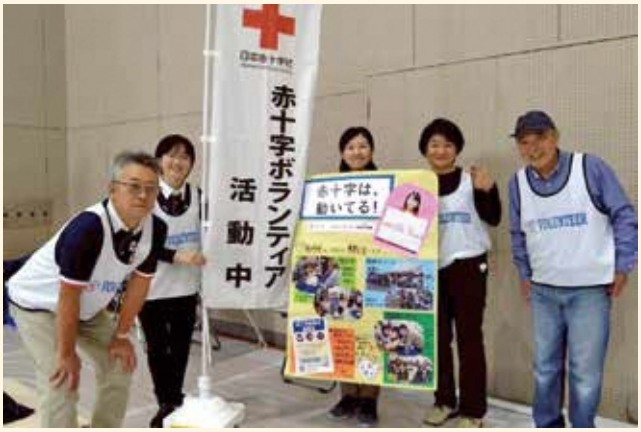
去る5月30日、柏崎市長様、刈羽村長様はじめ多くのご来賓のご列席をいただき、式典を挙行いたしました。席上、長きにわたり会のため尽くしていただいた前会長の髙橋玲子様に感謝状をお渡しいたしました。

記念講演として、長岡日本赤十字病院緩和ケア科の佐藤直子様をお迎えし、「自分らしく生きたい自分らしく逝きたい」との演題でご講演いただきました。結成から70年、繋いで来ることができました。歴代会長のご労苦に想いをいたし、また、これまで支えてくださった多くの会員の皆様、保護司会はじめ関係各機関の皆様に改めて御礼申し上げます。これからも更生保護の心で活動しているボランティア団体として、心豊かに生きられる社会を目指し活動してまいります。引き続きご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

愛の協力運動　会員のページ

人間尊重と支え合いの共生社会を目指して

新潟県赤十字安全奉仕団柏崎市分団　委員長
近藤由香里



赤十字安全奉仕団は、赤十字の博愛人道の精神に基づき、地域や職場で安全・防災活動を推進するために組織しているボランティア団体です。私たち柏崎市分団は、新潟県赤十字安全奉仕団の分団として、昭和63（1988）年10月に発足しました。

柏崎・刈羽地域を中心に、救急法、幼児安全法、水上安全法、健康生活支援講習などの赤十字講習会の開催、柏崎潮風マラソンの救護ボランティア、各地域の防災訓練における応急手当の普及啓発などに取り組んでいます。

創立37周年を迎えた現在は30名弱が所属し、男女比半々、10代から80代までの分団員が、それぞれ仕事や学業、家庭を大切にしながら仲良く活動しています。各自の立場や年代は様々でも、「苦しんでいる人を救いたい」、「人のために役立ちたい」との想いを共有する点は、保護司会の皆様とも共通していることと思います。

また、日本赤十字社のスローガン「人間を救うのは、人間だ。」には、人間尊重と支え合いの精神が込められています。これは、犯罪や非行をした人も、苦しみや過ちを抱えた一人の人間として尊重し、再び社会の中で生きる力を取り戻せるよう支援し、地域社会での共生を目指す更生保護の理念とも通じるのではないでしょうか。

なお、赤十字の主な講習会は満15歳以上であればどなたでも受講でき、要請に応じて数時間の短期講習も実施しています。更生保護活動の一助として、ご活用いただければ幸いです。

令和7年度　各種表彰者

【全国保護司連盟理事長表彰】
井上温成、横田良英
【関東地方保護司連盟会長表彰】
箕輪正仁
【新潟保護観察所長表彰】
大羽賀敏、名塚美幸、三嶋崇史
【新潟県保護司会連合会長表彰】
戸川良久
【日本更生保護女性連盟理事長表彰】
酒井美代子
【関東地方更生保護女性連盟会長表彰】
加藤愛子
【新潟保護観察所長感謝状】
佐藤美智子、永寶幸江、渡邊トミ子
【新潟県保護司会連合会長家族功労表彰】
髙野　隆、田村春江、横田英子
【新潟県更生保護女性連盟会長表彰】
石塚麻里、金子直美、西川文江、箕輪祐子

保護司の異動

ありがとうございました

退任　尾崎正俊（中田）
退任　大塚　登（高柳町岡田）
退任　栗林文英（東本町一丁目）
退任　横田誠一（長峰町）

よろしくお願いします

新任　山田　智（関町）